

序 章

北海道医療大学は、1974(昭和 49)年に、「知育・徳育・体育」の三位一体による医療人としての全人格の完成」を建学の理念とし、医療系総合大学をめざして設立された。薬学部、歯学部、看護福祉学部(看護学科・臨床福祉学科)、を順に開設し、また、歯学部附属歯科衛生士専門学校を併設している。さらに2002(平成 14)年には、心理科学部(臨床心理学科・言語聴覚療法学科)を開設した。本学は、現在、主要な2キャンパスからなり、札幌市の近郊に位置する当別町にある「当別キャンパス」に、薬学部、歯学部、看護福祉学部の3学部と歯科衛生士専門学校、歯科内科クリニック等が、札幌市の北端に位置する「札幌あいの里キャンパス」には心理科学部と大学病院が設置されている。加えて、社会人との接点を求める場として、札幌市の中心部のオフィスビルにサテライトキャンパスを設置している。また、それぞれの学部に関連して大学院は4研究科を設置している。

2009(平成 21)年5月1日現在の在籍学生数は、学部で2,472名、大学院で258名、教員数は349名、職員数は132名、医療職員数は111名である。本学は、1994(平成 6)年に大学基準協会の正会員校となり、1996(平成 8)年大学基準協会が初めて実施した「相互評価」に申請して、1997(平成 9)年3月に「第1回相互評価認定大学」となった。2003(平成 15)年4月には、2回目となる相互評価を申請し、2004(平成 16)年3月同協会から「大学基準に適合している」との認定を受けた。その後、7年を経過しての今回は、3回目(相互評価2回、認証評価1回)の申請となる。

この間、2006(平成 18)年には薬学部の6年制教育がスタートした。また、2007(平成 19)年4月には、教育目標達成と教育力向上を推進するため、「大学教育開発センター」を設置し、2009(平成 21)年4月には、医療系総合大学として全学生が学ぶべき授業科目(教養教育、基礎教育、医療基盤教育の3種類に大別)を設け、「全学教育」として開始した。

本学の特徴

本学は、医療系総合大学として、学生中心の教育、患者中心の医療を基本として、教育力向上に努めている。2002(平成 14)年に北海道の私立大学としては最初の1泊2日による合宿ワークショップ型FDを開始した。また、さらなる教育力の向上を図るため、前述のとおり、北海道内の私立大学では初めてとなる大学教育開発センターを設置した。教育力は、2002(平成 14)年に文部科学省が開始した「国公私立大学を通じた大学教育改革の支援」(各3年～5年間助成)に、以下のように採択された内容に現れている。

1. 特色 GP (2002(平成 14)年度 ～ 2004(平成 16)年度)「地域・大学連携による医療系基本教育」
2. 現代 GP (2003(平成 15)年度 ～ 2005(平成 17)年度)「地域への健康支援と融合・連携した学生教育」
3. 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム (2007(平成 19)年度選定)「全人的ケアの視点に立つキャリアアップのための音楽療法講座」
4. 現代 GP (2007(平成 19)年度選定)「多職種参加型「メディカルカフェ」の開設による地域医療の向上を目指して」
5. がんプロフェッショナル養成プラン (2007(平成 19)年度選定)「北海道の総合力を生かしてプロ養成プログラム」
6. 大学院教育改革支援プログラム (2007(平成 19)年度選定)「科学者実践家モデルに基づく臨床心理学教育」
7. 大学院教育改革支援プログラム (2007(平成 19)年度選定)「言語聴覚士卒後研修プログラムを含む大学院」
8. 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム (2008(平成 20)年度選定)「地域格差のない医療情報提供のための薬剤師・看護師教育プログラム」
9. 戦略的大学連携支援事業 (2008(平成 20)年度選定)「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」

10. 戦略的大学連携支援事業（2008(平成 20)年度選定）「北海道の地域医療の新展開を目指した異分野大学院連携教育プログラムによる人材育成」
11. 大学教育・学生支援推進事業(2008(平成 20)年度選定)「「学生キャンパス副学長」との協働によるキャリア・就職支援」

研究については、本学の文部科学省の科学研究費交付金は、全国の私立大学約 650 校中では、第 40 位であり、北海道の私立大学の中では第 1 位である。また私立大学学術研究高度化推進事業としては、以下のような大型研究支援をうけている。

1. ハイテク・リサーチ・センター整備事業(1998(平成 10)年度 ～ 2002(平成 14)年度)「口腔医学を基盤とした健康・長寿に関する先端的研究(歯学研究科)」
2. ハイテク・リサーチ・センター整備事業(1998(平成 10)年度 ～ 2002(平成 14)年度)年度選定「高齢化に伴う生体機能の変化とそれに対する創薬に関する研究(薬学研究科)」
3. 学術フロンティア推進事業(2002(平成 14)年度 ～ 2006(平成 18)年度)「個体差医療を目指した病態生理解析と創薬に関する先端研究(薬学研究科)」
4. ハイテク・リサーチ・センター整備事業（2006(平成 18)年度選定）「臨界期ストレスと脳の発育障害：分子基盤の解明と治療戦略への応用(薬学研究科)」
5. 学術フロンティア推進事業（2007(平成 19)年度選定）「認知症高齢者のトータルケアに関する学際的研究(看護福祉学研究科)」
6. ハイテク・リサーチ・センター整備事業（2007(平成 19)年度選定）「QOL の向上を目指した個体差口腔健康科学の創成(歯学研究科)」
7. 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（2008(平成 20)年度選定）「薬草園を機軸とした北方系伝統薬物の生物多様性解析から創薬まで」

2006(平成 18)年の教育基本法の改定によって、大学の役割として「教育」「研究」に加えて、「社会貢献」が盛り込まれた。社会の中における「医療大学」としての本学のアイデンティティは、「教育」「研究」「医療」の分野における知的拠点としての役割を担うことである。健康と医療の分野における社会貢献は、本学がこれからも果たすべき重要な使命である。日経新聞社から刊行されている雑誌「日経グローバル」では、毎年、全国の国公立大学のランキングを実施している。それによると、本学は、2007(平成 19)年、2008(平成 20)年そして 2009(平成 21)年の 3 年にわたり、医歯薬系大学における「社会貢献」の分野で、全国 1 位となった。その理由は、次のような本学の地道な活動が評価されたものである。

1. 生涯学習事業

本学の生涯学習事業の開講の実績(年平均)は、「一般向け」では約 50 講座、「卒業生・職能人向け」では約 65 講座で、総受講者数は約 4,500 名である。

2. ボランティア活動を基盤とした地域福祉活動

- 1) 特定非営利活動法人当別町青少年活動センター「ゆうゆう 24」：本学では、地域における学生ボランティア活動をさらに推進するために、2002(平成 14)年、当別町と共同で同町中心部の空き店舗に「北海道医療大学ボランティアセンター(別称：当別町青少年活動センターゆうゆう 24)」を開設し、本学看護福祉学部臨床福祉学科の学生を中心に、知的障がい児のレスパイトサービス等、様々な活動を行ってきた。そして、2005(平成 17)年度には、NPO 法人格を取得した地域生活支援事業所となり、子どもから高齢者、そして障がいのある人々に対する一体的なサービスを提供することを目的とし、地域共生ケアという視点で取り組んでいる。
- 2) 「地域福祉ターミナル」「オープンサロン」：両施設は、厚生労働省の『地域空間整備等(推進)交付金における新たな「共生型」基盤整備事業』の財政支援によって 2000(平成 12)年 7 月に開設された。「ターミナル」は、地域ボランティア団体の拠点であり、「サロン」は、障がいのある人々が地域住民と自然に交流しながら創作活動や就労訓練を行える新しい共生型のサービスを提供する場となっている。

3. 地域住民の大学教育への参画（キャンパスレス教育）

模擬患者（SP）：医療面接実習において、当別町民のボランティアの協力を得て、模擬患者（医療面接実習において患者役となる人＝SP）の役割を担っていただき、学生の医療面接のスキルアップを図っている。

4. オープンカレッジ in 北海道医療大学

本学では、2002(平成 14)年から北海道内最初の試みとして、高等養護学校および養護学校高等部の在校生や卒業生など、知的障がいのある人々を対象に生涯学習の場であるオープンカレッジセミナーを開催している。このオープンカレッジは、向学心のある人に「学び」の場を提供することを目的として開設された。

5. 薬学部附属薬用植物園

原生植物の宝庫として多くの地域住民に親しまれており、昨年度の来園者は、5,000 人を超える。

中長期行動計画の推進

本学は、より魅力ある大学づくりを目指し、これまでいくつかの改革・改善計画をたて実行に移してきた。最近では、1999(平成 11)年には、大学運営全体に関わる「2008 行動計画」を立て、1999(平成 11)年から 10 年間の企画を、年度を追いながら実行してきた。2004(平成 16)年度からは、「2008 行動計画」に新たな事項を加え、「新 5 ヶ年行動計画」を開始し、教育・研究・医療・社会貢献のさらなる充実・発展に努めてきた。この「2008 行動計画」は 2008(平成 20)年に計画の内容を具体化・実施して終了するにあたって、次の中長期行動計画を企画することになった。そのために、特別プロジェクトチームを組織して、「教育力向上プロジェクト」「キャンパス再構築プロジェクト」「医療機関一元化プロジェクト（北海道医療大学病院と歯科内科クリニックの一元化の検討）」をおき、重点的・集中的・包括的検討を開始し、次の 12 年間の企画を「2020 行動計画」として立案するに至った。

本学は、最後に設置された心理科学部につづく大学院が 2008(平成 20)年に完成年度を迎え、4 学部・4 大学院からなる医療系総合大学としての形が整った。そして、2009(平成 21)年に本学が医療系総合大学として 4 学部に通ずる全学教育（教養教育・基礎教育・医療基盤教育）を開始し、それぞれの専門教育が発展できるようにカリキュラムの整備を行った。一方、本学も 18 才人口の減少に伴う諸課題、医療社会の動きに大きく影響を受けている。看護福祉学部看護学科の志願者は上向きとなっているが、他の学部学科は、志願者の減少傾向がみえ、この数年間、看護福祉学部臨床福祉学科では入学定員割れが生じている。特に 2009(平成 21)年度は、歯学部の入学生数が 3 分の 2 にしか満たないという結果になった。また、近年、入学生の低学力化も問題となっている。さらに、各学部学科の卒業時に時期を同じくして実施される国家試験の合格率を上げることも重要な課題である。このように、本学では、教育の課題・発展対策など、取り組むべき諸課題を有する状況となっている。したがって、本学では、入学早期から適切な教育を展開し、質の高い教育によって、社会の期待に応えられる専門性と人間力を備えた人材を輩出していく体制をさらに明確にする必要がある。

本学は、毎年、自己点検評価を実施して「自己点検・評価概要、xxx 年 Message」として取り纏め印刷公表しているが、現在、上記のような重大に時期に直面していることから、第 3 回目の大学基準協会相互評価を申請するに当たり、大学基準協会相互評価項目に従って、本学の自己点検評価をさらに見直し、解決すべき課題、発展への具体的方策の実施へ向けた行動計画を緻密にする必要がある。そして、大学基準協会相互評価の結果で明らかにされる様々な具体的課題を真摯に受けとめ、すでに実施を開始している次期行動計画（2020 行動計画）の遂行に活かしていきたい。